

## ◇実践活動記録

「ふるさとに学び ふるさとを大切にする 千鳥っ子」  
～豊かな自然の恵みと地域文化に対する感謝の心をはぐくむ～

本校の校区に広がる自然や地域文化からは学ぶべきことが多く、生きた教材となっています。ただ、今年度はコロナ禍のため、これまでに積み重ねてきた活動を見直し工夫しながら、「ふるさと教育」に取り組んできました。

### 1 自然との関わり

#### ○生きもの調査（7月16日実施 4学年）

ビオトープ（千鳥の森）がつくられたのをきっかけにして、平成19年度から行われている活動です。地域の駒方地区資源保全隊や県高岡農林振興センターの方々に協力をいただいています。

まずビオトープの水を採取し、試薬を用いて水質を検査します。そして、ビオトープと近くの用水路からタモを使って生きものを捕まえ、小さな水槽で観察しスケッチします。生きもの名前を図鑑で調べ、分からない場合は農林振興センターの方に聞きながら、活動を進めます。ドジョウやアカハライモリなどの身近に生息する生きものを、まじまじと見ることで、子供たちは新たなことに気付くことができます。捕まえた生きものは観察が終わったら自然保護のために、元の場所へ戻します。この活動を通して、「いのち」に触れ合うこと、そして自分たちの周囲にたくさんの「いのち」があること、そんな自然の中の「いのち」を地域の方々も大切にしていることなどを学んでいます。



#### <千鳥っ子の声>

- ・ わたしは、アカハライモリを見て新しい発見ができた！と思いました。しかし、てきとうにあつかうと生きものたちがかわいそうだと思います。だから、大切に生きものたちの気持ちも考えてあつかおうと思いました。また、生きものたちが元気にくらするために努力しようと思いました。
- ・ 担当の方が生きものやしゅるいや名前を教えてくださいましたので楽しかったです。もっといろんな生きものをつかまえ、かんさつしたいなと思いました。教えてくださいました人に「ありがとう」の気持ちを伝えたいです。

## ○ビオトープ保全作業（5月9日、8月29日実施 高学年、P T A、教職員）



草がいっぱいやなあ〜

ビオトープ（千鳥の森）は水辺環境整備事業の千鳥丘水路整備の一環で、本校の隣接地に環境教育の場として親水広場が創設されました。児童が「千鳥の森」と名付け、学校ビオトープとして潤いのある教育活動に生かしています。この保全作業を年2回、地域・P T Aと児童・教職員が協力して実施しています。駒方地区資源保全隊の方々に刈っていただいた

大量の草を、早朝の奉仕活動の参加者で集めて運搬し片付ける作業を行っています。本年度も、5月の臨時休業中にP T A役員と教職員で、夏休みには高学年の児童や保護者らで実施しました。子供たちは「千鳥の森」に親しみ、自然の中で活動する楽しさや心地よさを体感しています。



ビオトープの池もきれいに

## ○農園等での栽培活動（各学年、ボランティア・栽培委員会）

学校に隣接する農地を使わせていただき、各学年でそれぞれの作物を育て、農作業の大変さや収穫の喜びを体験しています。1年生は、たくさんの大きなサツマイモが収穫できたので、給食に使ってもらい、全校児童でいただきました。3年生は、大きく育ったひまわりの花を校内に持ってきて、種子の様子を観察しました。一粒から大きな花を咲かせ、数千もの多くの種を付ける植物の生命力に子供たちは驚きを禁じ得ません。



サツマイモの収穫作業（1・2年）

校舎正面玄関で、4年生がヘチマのグリーンカーテンづくりに挑戦しました。涼しい夏でしたが、2階まで達したことにビックリです。校舎周辺のいたる所で、美しい環境を整えようとボランティア・栽培委員会が、季節の花を植え育てています。全校児童が何らかの栽培活動に取り組み、自然を大切にする心をはぐくんでいます。



ヘチマのグリーンカーテン（4年）



ひまわりへの水やり作業（3年）



銅像の周りにきれいな花を  
（ボランティア・栽培委員会）

## 2 地域との関わり

### ○千鳥丘新聞の作成（9月実施 6学年）

本校では、平成19年度から郷土への愛情をはぐくむために「千鳥ウォーク」を行ってきました。全校児童の縦割り班で、半日かけて校区の施設や見所を歩いて巡り、見学したり遊んだりする行事です。今年度はコロナ禍のために中止となりましたが、6年生が千鳥丘地域のことを発信したいと「千鳥のよさを伝えよう」新聞を作成しました。一人一人が地域の有名人、自然や歴史・文化、小学校のこと、ボールパークのことなどのテーマをもって調べ、6年生の目線から記事を書き上げていて読みごたえがありました。子供たちの地域への愛着や誇りを感じることができる作品です。仕上がった新聞は、学習展示会で保護者の方々にご覧いただきました。



### ○地域施設の探検（9月16日、10月26日実施 2学年）

地域の施設でリスクが少なく見学できる所を探検しようと、2年生が西部総合公園（ボールパーク）と西高岡駅を訪れました。ボールパークでは管理人さん、西高岡駅では駅員さんにそれぞれの施設を案内してもらったり、疑問点を質問したりしました。子供たちは地域で働く方々と触れ合う中で、働くことの大切さとこの地域のよさを感じていました。そして、ていねいに案内してもらった方に、感謝の気持ちをお手紙にして届けました。

ボールパークは大きいなあ



### <千鳥っ子の声>

- ・ ボールパークのことが、よくわかりました。あんなにすごいところを見せてくれて、やさしい人だと思います。高いところにもいかせてくれてありがとうございます。これからも、がんばってはたらいてくださいね。
- ・ おいそがしい中、ぼくたちのしつもんにもいろいろこたえてくださってありがとうございます。西高おかえきのおしごとをやっていただけてありがとうございます。けんばいきの下にあるへこみにもいみがあるとはじめて知りました。

## 3 授業での関わり

### ○地域講師のお話（9月15日実施 5学年）

防災について調べていた5年生が「千鳥丘校区で災害が起こったらどうすればよいか」という課題をもち、地域の消防士さんから直接に話を聞きたいと、授業の講師としてお招きしました。子供たちは実体験に基づいたお話を聞き、災害の恐ろしさをより身近に感じるとともに、地域安全についての取組について理解を深め、自分ごととして捉えることができました。地域の方からのタイムリーなお話は、郷土理解のために効果的だった場面でした。



### ○N I E 授業実践（11月17日実施 3学年）

本校は今年度N I Eの実践指定校であり、3年社会「事故や事件からくらしを守る」という単元で研究授業が行われました。安全なまちづくりのための新聞記事を取り上げた後、教師が「この千鳥丘ではどうだろう」と問いかけ、「地域の人々の声を聞いてみよう」と本校区の方々の声を動画で紹介しました。子供たちはディスプレイに映る千鳥丘校区交通安全協会長さんの話を、耳を立てて聞いていました。社会科の授業における「ふるさと教育」としてふさわしい場面でした。



## まとめ

「関わり合い」は子供の学びにとって大切なものですが、コロナ禍では人との関わりを制限せざるを得ません。その中で、地域を教材とした「ふるさと学習」をどのように進めていくかと試行錯誤を重ねながらの実践でした。そして、子供たちの心の底にある、自分の地域のよさを知り、誇りとし、大切にしたいという思いをしっかりと受け止め、引き出してやることが重要だと分かりました。これからも、様々な角度からいろいろな方法で、子供たちが将来大人になっても心の中に残る「ふるさと教育」を進めていきたいと思っています。